

令和3年8月31日  
オリンピック・パラリンピック推進課

## 令和4年度 東京都に対する要望事項について

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会施設の後利用について

(オリンピック・パラリンピック推進特別委員会)

## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会施設の後利用について

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）は、新型コロナウイルスの感染拡大により史上初めて大会開催が1年延期となり、さらに無観客という前例のない形での開催となったが、組織委員会や東京都、その他大会関係者の尽力により、無事に閉幕を迎えることができた。

大会の主要な開催地のひとつであり、区内に多くの競技会場を抱える江東区は、今回整備された施設がレガシーとして活用され、「スポーツと人情が熱いまち 江東区」がさらに発展を遂げられるよう、以下の通り大会施設の後利用について強く要望する。

- (1) 東京2020大会からスポーツクライミングや3x3バスケットボール、BMXフリースタイルなどのアーバンスポーツが正式種目となり、特にスケートボードでは、江東区出身の堀米雄斗選手が男子ストリートで金メダルを獲得するほか、女子ストリート及び女子パークでもメダリストが誕生するなど、注目を浴びる競技となった。

令和3年3月に東京都が策定した「『未来の東京』戦略」では、「有明アーバンスポーツパーク（仮称）」として、大会時の会場跡地に仮施設を活用した都市型スポーツの場を整備するとしている。

レガシー施設の整備にあたっては、アーバンスポーツを気軽に楽しめる運営方法や料金設定とし、特にスケートボード会場については、今大会で使用した競技施設を活用し持続的なレガシー施設として整備すること。

- (2) 東京都は、海の森水上競技場の後利用に関して、アジアの水上競技の中心となる国際水準の競技場としてアスリートの強化及び育成、水上競技の裾野拡大を図るという計画を示している。また、隣接する海の森クロスカントリーコースを大会後は海に囲まれた緑豊かな海の森公園として開園し、水上競技場と連携した臨海部の新たなにぎわいの場を創出するとしている。

江東区も長期計画において、中央防波堤埋立地について大会施設のレガシーを活用しつつ、水と緑に囲まれた豊かな環境の中で多くの区民がスポーツやレジャーを楽しむことができる憩いの場となることを目指している。東京都はこの点を踏まえて、今後海の森公園を整備するとともに、交通アクセスの強化を図ること。また、海の森水上競技場については、水上スポーツ体験や誰でも参加できるカヌー大会の実施など一般区民も広く利用しやすい施設運営を行うこと。

(3) 平成31年3月、東京都は東京辰巳国際水泳場を都内に施設数が少なく、利用ニーズも高い通年のアイスリンク施設として整備する方向性を示した。

そこで、アイスリンクとしての具体的な施設概要や今後の整備スケジュールを早期に示すこと。

また、新しいアイスリンクは、東京アクアティクスセンター、夢の島公園アーチェリー場、夢の島競技場等などの隣接する施設と連携した多様なスポーツに親しめる場として整備すること。

(4) 東京都が東京2020大会のレガシーとして示した「臨海スポーツゾーン」の形成に際しては、本区臨海部の有明・豊洲地区、辰巳・夢の島・新木場地区、海の森・若洲地区が一体となり、面的に広がりのあるレガシーを形成すること。

また、上記(1)～(3)の大会施設の後利用について、今後具体的に検討や整備を進めるにあたっては、地元住民・企業等の意見に十分配慮し、区と協議を行うこと。